

史跡・名勝 **飛鳥京跡苑池** 第9次調査  
(飛鳥京跡第175次調査) 現地説明会資料

2014年7月19日  
奈良県立橿原考古学研究所



1区 全景 (南から)



2区 石敷と石組溝 (北東から)

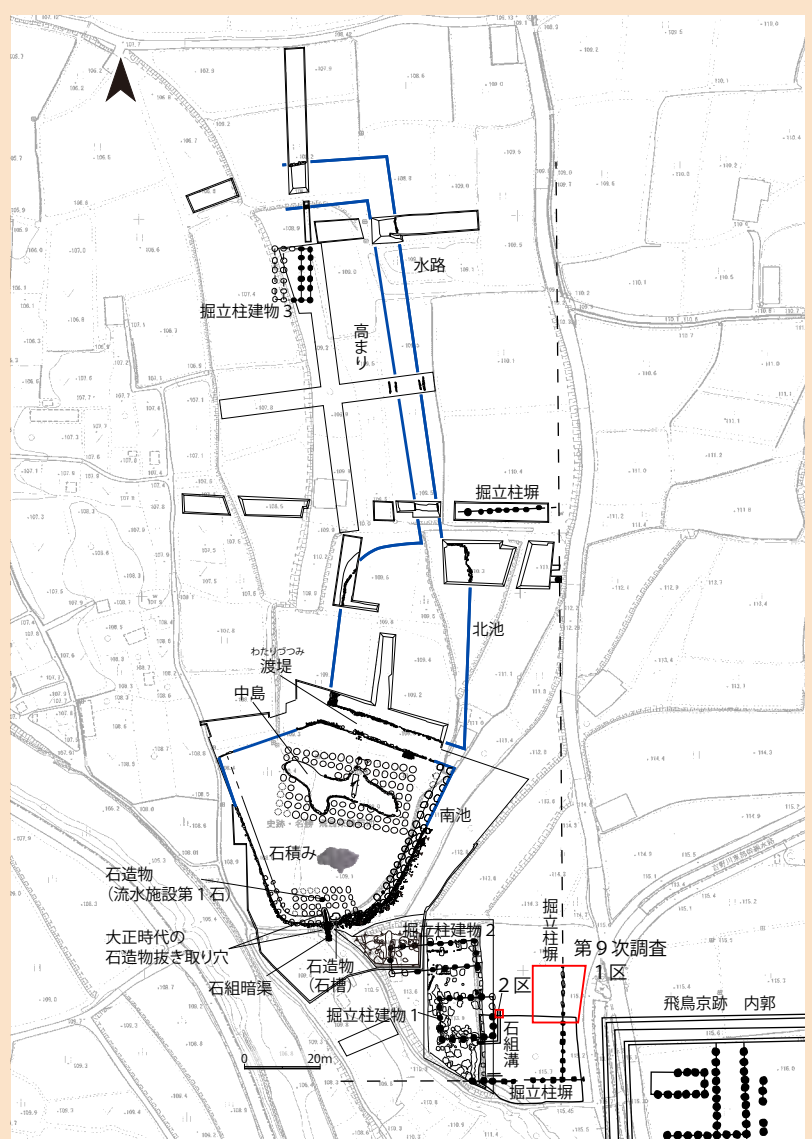


1区 掘立柱塀 (南から)





飛鳥時代の苑池と宮殿・寺院



飛鳥京跡苑池全体図

1/1,000「史跡・名勝 飛鳥京跡苑池」

### はじめに

史跡・名勝飛鳥京跡苑池は、奈良県高市郡明日香村岡に所在する飛鳥時代の苑池です。平成 11 (1999) 年の第 1 次調査によって、初めて苑池の存在が確認されました。これまで 8 回の調査をおこない、南北 2 つの池 (南池・北池) と渡堤、水路、建築物 (掘立柱建物・掘立柱塀) で構成されること、石造物が設置されていたことなどを明らかにしてきました。平成 22 (2010) 年度からは、史跡・名勝飛鳥京跡苑池の保存整備・活用事業の一環として発掘調査を実施しています。

### 調査の内容

1 区 調査区東側において、飛鳥時代の南北方向の掘立柱塀が検出されました。これは、南側隣接地で検出された掘立柱塀の北側延長線上に相当します。調査区内では、南北約 15m にわたって柱穴 7 箇所が確認されました。柱間は、2.4 ~ 2.7m です。今回の調査区から約 100m 北方に離れた北池の東側でも柱穴が確認されており、今回検出した掘立柱塀と北池の東側の柱穴は一直線上に並んでいた可能性が出てきました。掘立柱塀の南端から北池の東側までを含めると、この掘立柱塀は南北約 130m 以上にわたってつくられた苑池の東側を限る大規模な区画施設であったとみられます。

2 区 調査区全体で石敷を検出しました。中央には南北方向の石組溝があります。石組溝の西側に隣接して飛鳥時代の掘立柱建物 1 棟が、これまでの調査によって確認されています。石敷はこの掘立柱建物にともなうもので、雨落溝として機能していたと考えられます。

### まとめ

今回の調査によって、苑池の南東における遺構の実態が明らかになりました。そこには掘立柱建物 2 棟が配置され、その周囲には石敷が広がり、さらに苑池の南側と東側を掘立柱塀が取り囲んでいました。苑池の南東には宮殿である飛鳥京跡Ⅲ期宮殿の内郭が位置しており、苑池の東側には掘立柱塀がとりつく門などが存在した可能性も考えられます。今後も継続して発掘調査をおこない、このような検討課題を明らかにしていく必要があります。

